

<関口鉄夫さんプロフィール>

関口鉄夫さんは1950年長野県生まれ。信州大学教育学部地学科卒業、教職を経て民間企業に就職。運送会社でアルバイトをしながら河川や廃棄物問題の調査・研究に没頭する。

1995年に『長野県廃棄物問題研究会』を設立し、1998年には全国の保健医療分野で「草の根」的に活動されている方を顕彰するために制定された若月俊一賞を受賞した。「長野県下の産業廃棄物問題にとりくみ、産廃問題に対応する行政のあり方に厳しい提言を行いながら、住民と一緒に問題解決に努力した功績を評価された結果である。

『長野県廃棄物問題研究会』では調査研究責任者となり、『まず、現場を見て歩き、地元の人の話を聞く』ことを信条としてねばり強い活動を続けた。その足で蓄積したデータと地域密着型解析手法は全国的な注目を集め、高い評価を得ている。

《関口鉄夫さんの足跡》

- ・(財)日本農村医学研究所客員研究員、信州大学教育学部講師、滋賀大学教育学部非常勤講師、長野大学産業社会学部講師
- ・廃棄物処理施設をめぐる環境汚染や健康被害の調査を続けながら、全国各地の住民運動や裁判を支援
- ・長野県 戦略アセスメント専門部会委員(平成15年～17年 長野県)・廃棄物処理施設建設に関する戦略環境アセスメント、沖縄県平良市(現宮古島市)、東京都町田市、徳島県美馬市などの公的な委員会の委員を歴任
- ・1999年に、全国の保健医療分野で「草の根」的に活動されている方を顕彰する、第8回若月賞を受賞。
- ・著作・論文等：「ごみは田舎へ」(川辺書林)、「田中県政への提言」(川辺書林 共著)、「県議ふしぎ発見」(川辺書林 共著)、「スキー場なんかもういらぬ」(緑風出版 共著)、「女たちの3.11」(オフィスエム 共著)ほか
- ・長野県牟礼村アスベスト工場周辺の生活環境と自覚症状調査
- ・沖縄県平良市産業廃棄物最終処分場火災事故周辺地区住民の自覚症状等調査
- ・埼玉県所沢市産業廃棄物焼却施設周辺の降下物と周辺住民の自覚症状調査
- ・長野県上山田町民間焼却炉による生活環境と住民の健康に関する学術調査
- ・神奈川県二宮町の焼却炉の環境と住民の健康への英気用に関する調査
- ・福島第一原発事故以降は、福島県内の汚染や除染調査、健康調査を継続